

諦めないこと

かつらぎ町立妙寺中学校 3年 森本 竜 生

「もっと走りたい、諦めたくない。」私は2年前の春にこの思いを強く抱きました。あれから2年経ち、最終学年の今も仲間と共に走り続けています。私の2年前の思いが叶ったからです。

2年前、小学校の卒業式が近づくにつれ2つの思いをもつようになりました。1つは、中学生になったらいろんなことに挑戦し、たくさんのことを学びたいという希望に満ちた思いです。一方、部活動に対して「やってみたい部活動がない。どうしよう。」と不安になる思いもありました。私は「走ること」が好きだったので部活動は「陸上部」に入部したいと思っていました。でも、私の入学する中学校には「陸上部」はありませんでした。つまり、私の「もっと走りたい」という思いを諦めなければならないということでした。何だかモヤモヤとした気持ちで小学校を卒業しました。そして、いよいよ中学校の入学式を迎えました。来賓の方からのお祝いの言葉を聞いていると、話の中に「勉強、部活動を頑張ってください。」という内容の言葉がありました。私は「陸上部がないのに、いったい何を頑張れというのだ。」と投げやりにも似た気持ちにもなりましたが、ふとある考えが思いついたのです。「そうだ、陸上部がないなら作ればいいんだ！」やっぱり私は走ることを諦められませんでした。

家に帰るとすぐに、私は双子の弟に、この思いを伝えました。不思議と同じ気持ちだったことを知り、お互い驚きました。そして、この瞬間からモヤモヤとした気持ちがなくなり、中学校生活への夢が大きく膨らみ始めました。

弟と話し合い、担任の先生に「陸上部を作りたい、走りたい。」と伝えようとした日の朝、ジュニア駅伝と一緒に練習した仲間から「陸上したいから先生に言おうと思うんだけど」と声をかけられました。2度目の驚きでした。「心が弾

むとはこのことか！」と思いながら私たちは興奮気味に先生に伝えました。すると、私たち3人の思いは、先生から校長先生に、校長先生から教育委員会へと伝わり、ついにかつらぎ町が地域移行を進めている部活動の1つとして「陸上部」を作ってくれることになったのです。「もっと走りたい、諦めたくない。」この私の思いがついに叶ったのです。

創部が決まり、指導してくださる先生に、3人で挨拶に行きました。そして、「私たちの夢を叶えてくださってありがとうございます。頑張ります。」と挨拶すると、「夢が叶うのはこれからだ。」と笑顔でおっしゃいました。私は正直どういう意味だろうと思っていました。数日後に保護者も交えての顔合わせのとき、先生が「3人と、全国の舞台を見てみたいと思います。」と話してくださいました。あのときの言葉の意味がやっと理解できました。「全国？私たちが？」と、一瞬驚きましたが、こんな言葉をかけてくれる先生のもとで「全国という舞台に3人で行きたい！」と思うようになりました。

あれから2年の月日が経ちました。3人から始まった陸上部は、小学生の仲間も増え43名の「陸上部」になりました。私はキャプテンとしてみんなの前で体操をします。私が「1、2、3、4」と号令をかけると「5、6、7、8」と元気な声が返ってきます。仲間と共に走れる喜びを感じる瞬間です。私はこの瞬間があることに感謝し、今を「走りたい」です。私はこの諦めない経験が「自信」になりました。だから、もう無理だと思って諦めようとしている人たちに伝えたい。「諦めないことの積み重ねが自信になり、今までの頑張りが実を結ぶ日がきつとくる！」

そして、私はこれからも「諦めない！」そう心に誓い、この先も仲間と一緒に走り続けていきます。